

- 気象庁の長期予報に基づき、適期内播種に努めましょう！
- 麦の生産には、土づくりと防除(種子消毒)が必須です！
- 排水対策を徹底しましょう！

## 1 適期播種

芳賀地方の播種適期：11月6日～20日

表 令和5年11～1月の3ヶ月予報(10/24発表、次回11/21発表予定)

関東甲信地方	11月	12月	1月
平年より高い	40%	40%	50%
平年並	40%	40%	30%
平年より低い	20%	20%	20%

エルニーニョ現象の影響が  
残るため暖冬かもまる

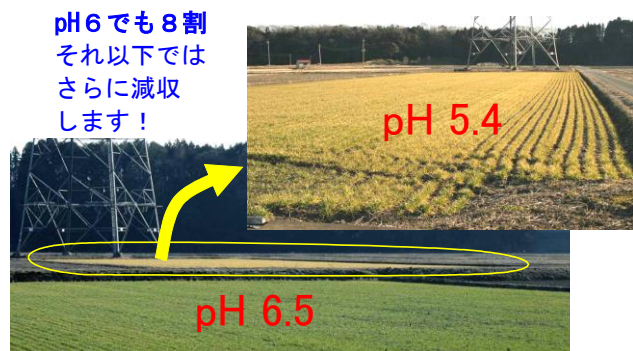
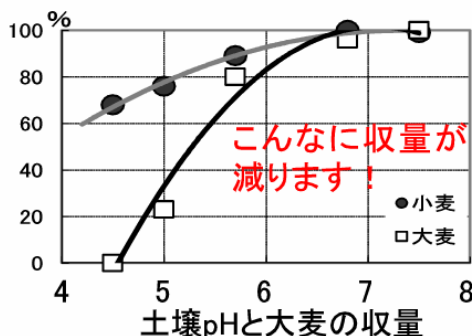
出典：気象庁



11～12月の気温は平年より高い確率が40%で暖冬傾向の見通しです。  
播種適期を基本として「年内に少なくとも3葉（播種後の積算気温約300℃）は確保できる時期」に播種をしましょう！

## 2 土づくり

- ◇麦は酸性に弱く、特に大麦は酸性を嫌い、pH5.5以下では著しく減収します。  
播種前にアルカリ資材を施用して矯正しましょう（目標pH6.5）。水稻跡や黒ボク土は酸性になりやすいので注意しましょう。
- ◇大麦は苦土（Mg）欠にも弱く、特に畑地は苦土が欠乏しやすいため、苦土の供給を心がけましょう。
- ◇安定した収量を得るためには、リン酸の供給がポイントです！  
リン酸は根の発達や分げつの発生を促進するので生育初期に重要です。特に、黒ボク土は施用効果が高いため、リン酸を施用しましょう。



### 3 防除

◇種子消毒をしましょう！

大麦斑葉病（写真1）やなまぐさ黒穂病（写真2）の発生が見られます。発生防止のために種子消毒を徹底しましょう！

◇遅まきは発生を助長します。適期播種に努めましょう。

◇種子消毒の効果は浸漬処理＞湿粉衣処理＞乾粉処理の順で効果が高いとされています。



写真1 大麦斑葉病



写真2 なまぐさ黒穂病

### 4 排水対策

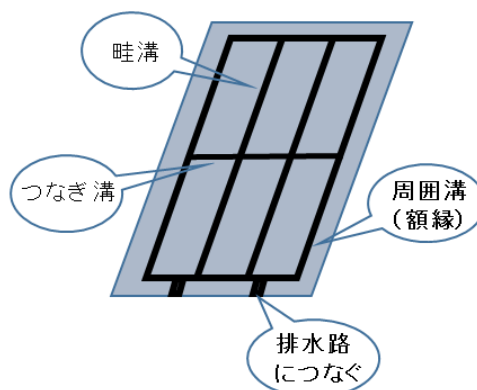
◇麦は湿害に弱く、生育全般を通じて湿害を受けやすいです。

湿害は、播種時には出芽不良、生育期には茎数不足と1穂粒数不足、登熟期には粒充実不足を引き起こし、減収をもたらします。

◇排水対策のポイントは①ほ場周囲の排水溝の設置、②浸透排水（プラソイラ等による心土破碎）です。以下を参考に排水対策を実施しましょう！

湿害回避に効果的な営農排水対策

① ほ場周囲の排水溝設置
② 排水溝の掘り下げ、排水路への接続
③ 排水溝や排水口の点検
④ 心土破碎・天地返し(例:プラソイラ)
⑤ 弾丸暗渠・心土破碎(例:振動式サブソイラ)



明渠(地表排水溝)の例



幅広で深い額縁明きよ